

## 研究班番号【 63 】

# 時代変化と音楽～流行から音楽と人間、様々なものの関係を捉える～

音楽班:鈴木 つぐみ、山本 奈津花

### Abstract

The purpose of this paper is to analyze correlation of music and many types of media. We focused on some movies and TV dramas. We also research video distribution services. This study reports what kind of relationship is between TV fashion and music fashion. We compared some graphs such as television ratings. The experiment shows that the number of TV users decreases per year. In addition, people who often watch TV rather than using the internet also decrease. We couldn't catch the relationship between music and television. because of them, we would like to research with many more songs.

### 要約

本研究の目的は、流行曲とTV や映画の関わりを明らかにすることである。

私達は映画やテレビドラマの主題歌に焦点を当て、音楽の人気との相関について文献調査を行った。その結果、ヒットチャートに登場する曲は映画であれば興行収入、TV ドラマであれば視聴率が高い傾向が見られた。しかし、現代に近づくにつれ、相関が弱まる傾向が見られたため、TV や YouTube の普及率調査を行った。その結果、若い年代の TV 視聴時間の減少、YouTube 視聴時間が TV 視聴時間を上回る時間帯がある等がわかった。しかし、音楽と TV や映画の関わりについて明確に断言できる量の調査を行えなかつたため、今後の展望としてはより多くの曲をターゲットにした調査を行いたいと思う。

### 1. はじめに

世間で流行している曲は、どのように流行し、その流行はどのようにして移り変わっていくのだろうか。私たちは、流行する曲には、テレビや映画、SNS との関係があるのではないかと考えた。先行研究では、歌謡曲の流行の原因を音楽的要素から解明することを試みていたが、本研究は、映画やドラマの視聴率や興行収入、テレビの普及率などを指標とし、それらの関係を分析することで、流行曲と様々な物事との関係を解き明かそうというものである。

### 2. 研究手法

ドラマや映画と流行曲の関係について分析するために、文献調査を行った。

#### 《実験1》

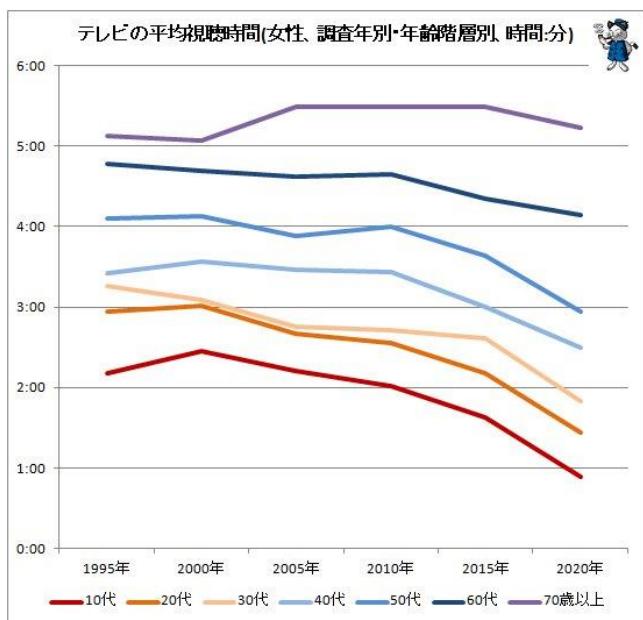
①2000 年代～2020 年代の年代別ヒットチャートのランキングを調べ、各年代ごとに、上位の曲を 3 つずつ抽出する。

②それぞれの曲が使われている映画やドラマの興行収入や視聴率を分析する。

#### 《実験2》

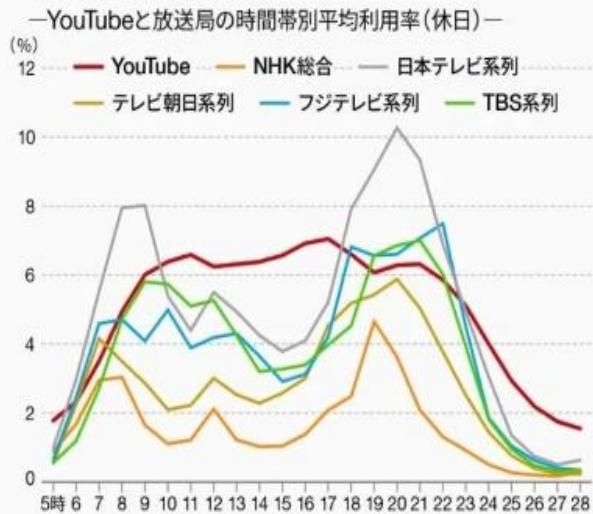
①TV や、動画配信サービスの普及率を調べる。

②YouTube の利用率と各テレビ局の利用率を比較する。



引用)

## ■ 休日は昼から夕方まで YouTubeがトップ



(図1:注1より引用)

(図2:注2より)

### 3. 結果

#### 《実験1》

高視聴率の基準を 15% 以上、映画のヒットの基準を興行収入 30 億円以上とすると、チャート上位の曲が使用されている映画やドラマは、興行収入や視聴率が高い。2000 年代では、30% を超える高視聴率のドラマが多いが、2020 年代に近づくにつれ、視聴率は下降している。一方で、映画に着目すると、2020 年代では、映画の興行収入がヒットの基準を大幅に超える作品が出てきている。

#### 《実験2》

文献調査により TV の普及率は低下し、平均視聴時間も減少している。(注釈:1) 一方で朝 6 時から 9 時や夜 18 時から 22 時はテレビの利用率が YouTube を上回った(注釈:2)。

### 4. 考察

調査より、テレビの普及率や視聴率は若い世代で特に低下していることがわかった。

しかし、「家族と過ごす時間にはテレビをつける」という風潮や、家庭によっては幼い頃からテレビを見る習慣があることで、どの年代も TV が YouTube を超す一定の時間が存在することが予想できる。

インターネットの普及により、流行の根源はテレビのみではなくなり、番組の視聴率を分析するだけでは不十分であった。しかし、SNS やテレビの見逃し配信サービスなど、インターネットの普及も多岐にわたっており、様々な視点から分析し、曲と人とそれぞれのインターネットサービスとの関係を捉えながら分析を進めることが必要であった。

### 5. 結論

Tver や Hulu などの動画配信サービスの普及により、視聴率や興行収入だけでは音楽の流行との相関関係は拾いきれなくなってきた。また、スマートフォンの普及や動画サイト、SNS の発達により、テレビの視聴率と音楽の流行の結びつきが薄くなってきた。時間帯によって YouTube の利用時間のほうが長いこともわかり、そのことも関係しているのではないか。

人々の暮らしや発展に応じて音楽の傾向も変化したように感じられるため、より多くの要素と音楽の結びつきを研究することによって深まるであろうと考えられる。

## 6. 参考文献ならびに参考 Web ページ

- 年代流行”邦楽ヒット曲 ランキング”(<https://nendai-ryuukou.com/song.html>)
- 東洋経済オンライン”データが証明「Youtube に食われる放送局」の実態”(<https://toyokeizai.net/articles/-/450243?page=2>)
- ガベージニュース”テレビの視聴時間は若年層から中年層で減少中、高齢者はほとんど変わらず(最新)”(<http://www.garbageneews.net/archives/2058777.html>)(注1)
- ガベージニュース”年齢階層別のテレビ普及率”(<http://www.garbageneews.net/archives/2058777.html>)(注2)